

## 第5回 飯南町総合振興計画等策定委員会

### 議事録

開催日時・場所	日時：令和6年5月17日（金）13:30～17:20 場所：飯南町役場本庁舎 2階大会議
議事次第	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 開会</li><li>2. 議事<ul style="list-style-type: none"><li>(1) 飯南町総合振興計画・総合戦略の目標指標（KPI）について【資料1】</li><li>(2) 令和5年度地方創生推進交付金事業の事業実績及び令和6年度事業<ul style="list-style-type: none"><li>・高校を核とした新たな人づくり・人の流れづくりプロジェクト【資料2】</li></ul></li><li>(3) 令和5年度飯南町総合振興計画の施策実施状況【資料3】<ul style="list-style-type: none"><li>・まちづくり推進課【資料3-①】</li><li>・保健福祉課・福祉事務所・飯南病院【資料3-②③】</li><li>・教育委員会【資料3-④】</li><li>・総務課・頓原基幹支所【資料3-⑤】</li><li>・住民課【資料3-⑥】</li><li>・産業振興課【資料3-⑦】</li><li>・建設課【資料3-⑧】</li></ul></li></ul></li><li>3. 閉会</li></ol>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"><li>・議事次第</li><li>・委員名簿</li><li>・資料1：第2次飯南町総合振興計画後期基本計画・第2期飯南町総合戦略 重要業績評価指標（KPI）一覧</li><li>・資料2：令和5年度デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進 タイプ）事業実績及び令和6年度事業</li><li>・資料3：令和5年度総合振興計画の施策実施状況報告書</li></ul>



評価委員会の様子

**【出席者名簿】**

番号	所属団体組織等	委員	備考
1	飯南町自治区長連絡会	会長	石橋 洋司
2	飯南町社会福祉協議会	地域福祉課長	吾郷 由美子
3	飯南町商工会	事務局長	加津山 幸登
4	飯南町農業委員会	会長	今岡 和登
5	飯南町 PTA 連合会	副会長	板垣 正行
6	山陰合同銀行	赤名出張所所長	勝部 美穂子
7	山陰中央新報社	編集局次長	万代 剛
8	島根県中山間地域研究センター	主任研究員	東 良太
9	島根県情報システム推進課	CIO 補佐官	林 正知
10	住民委員		大島 孝子
11	住民委員		影山 和典
12	住民委員		芥川 優子
事務局	まちづくり推進課	課 長	藤原 清伸
		課長補佐	前川 由紀
		主 幹	岡田 祐也
		主 幹	森山 雄三
	(株)コスモブレイン (業務委託業者)	技術部計画課 技術員	上代 美帆
		技術部計画課 技術員	松谷 蒼馬

## 【議事録】

### 1. 開 会

板垣委員	<p>飯南町 PTA 連合会で引継ぎを受け、参加させていただくこととなった。今年度頓原小学校の PTA 会長を務めている。</p> <p>妻の実家は掛合で、小学校 3 年から飯南町で生まれ育った。その妻と縁があり、京都から飯南町へ来て 20 年経った。その間に 4 人子どもを受け、まちで育てていただいてると実感している。今回機会をいただいたので、私の立場から何か役に立てればと思う。個人的には、天理教の教会を預かる教會長であり、また町内バスの運転もしている。社協の方でも、生活支援や地域福祉会の事務局を担っており、民生委員という立場もあるため、子育て、高齢者問題、地域の問題、福祉的な問題の観点からも、役に立つことがあれば良いと思っている。途中参加のため、迷惑をかけることもあるかと思うが、お役に立てるよう頑張りたい。</p>
石橋委員長	<p>5 月になり暑さ寒さが交互にやってきて、体がついてこないところもあるが、頑張ってまいりたい。策定委員会も本日で 5 回目となった。予定としては、8 月頃を目処に計画をまとめ、9 月の町の定例議会に報告するスケジュールであり、そこへ向けて内容を詰めていく段階になる。</p> <p>先ほど挨拶いただいた板垣委員には、途中からでわからないこともあると思うが、多方面にご活躍なので、色々なご意見を遠慮なく発言いただきたい。</p> <p>1 点確認で、今日は既存計画の評価というような形だと思うが、例年、評価委員会の委員はどういう方が務めているか。</p>
事務局	評価委員会は例年開催しており、今回の委員にも昨年度評価委員を務めた方が含まれているが、町内の各団体の代表者や住民の公募者など、策定委員会と同じような組織で例年評価を行っている。
石橋委員長	毎年評価委員会の委員はその都度選定されており、固定されているわけではないため、今年度は策定委員会のメンバーが評価委員を兼ねる形で進めさせていただく。

### 2. 議 事

#### (1) 飯南町総合振興計画・総合戦略の目標指標 (KPI) について 【資料 1】

(事務局説明記録省略)

(異議なし)

(2) 令和5年度地方創生推進交付金事業の事業実績及び令和6年度事業  
・高校を核とした新たな人づくり・人の流れづくりプロジェクト【資料2】

(事務局説明記録省略)

(異議なし)

(3) 令和5年度飯南町総合振興計画の施策実施状況【資料3】

・全体の説明、まちづくり推進課【資料3-①】

(事務局説明記録省略)

石橋委員長	令和5年度飯南町総合振興計画の施策実施状況【資料3】全体について、実施状況の項目がほとんど実施中となっているが、実施状況の項目は必要なのか。
まちづくり 推進課	5年計画の最初は検討中などあったが、現時点ではほとんど実施中となっている。今までの流れ等、わかりやすいよう表記を検討する。
加津山委員	<p>施策 16 拠点機能の整備 No.23</p> <p>地域運営組織はどのような組織なのか教えてほしい。</p>
事務局	14 自治区は行政主導であり、基本的には公民館単位での組織づくりを目標としているが、地域によって地域づくりの進み具合が異なっている。5つの公民館エリアを想定すると、志々地区や来島地区、谷地区では一つの形ができつつあるが、赤名地区や頓原地区はまだエリア分けできない状態である。地域ごとの地域づくりに対する温度差もあり、進行状況が異なっている状況である。赤名地区や頓原地区は小さな自治区単位の取組がメインとなっている。基本的に5つの公民館エリアでの組織運営を目標としている。
加津山委員	3つの地域はそれぞれ1つのエリアとして運営されており、残りの2つは取組みが十分ではなく、住民の参画意識や事業量に差が出ているという認識でよいか。
まちづくり 推進課	<p>そうである。危機意識の高い地域は、早く取組に取り掛かり、進捗も早いが、地域によって取組み意識や状況に差がある。</p> <p>現在は休止されているが、昨年度赤名地区では、自動運転を中心とした地域づくりの検討を進めていた。</p> <p>頓原地区も、現在島根大学の作野先生をアドバイザーとして迎え、それぞれの地域の情勢や状況を踏まえて取組みを始めている。</p> <p>それぞれのスピードで取組みを進めていきたいと考えている。</p>
加津山委員	住民の参加意識に違いがあるのは当然だと思うので、それを課題としてとらえるのはどうかと思う。地域ごとの取組に多様性があってもよいのでは。
まちづくり 推進課	それぞれの地域の特色や風土を踏まえて、表現を変更する。

板垣委員	<p>まちづくりのために住民の意識の向上が必要とのことだが、その核を公民館に求められているような説明だと捉えている。</p> <p>各公民館の熱量や取組み方によって差が出ると思うが、公民館に対して町からの目標や取組み方は共有されているか。</p>
まちづくり 推進課	<p>公民館エリアを地域づくりのエリアとして考えているが、公民館に担い手の役割までは求めていない。まちづくり推進課としては、各公民館に1~2人配置されている集落支援員と共に地域づくりをしている。その中には、公民館が集落支援員と一緒に動いている地域もあれば、公民館が主体となっている地域もある。行政の押し付けになると良くないのでそこは慎重に進め、基本的に住民主体のまちづくりをしていきたいと考えている。</p>
万代委員	<p><b>施策 28 飯南高校の魅力化</b></p> <p>財政状況が許せば、飯南高校は町立高校になった方が良いと考える。</p> <p>地方創生推進タイプの交付金の立て付けの中で、コーディネーターの配置など事業を展開されていると思うが、資料には記載されておらず、高校の魅力化の項目とは別のものという理解でよいか。</p>
まちづくり 推進課	<p>施策 28 に該当する No.45 の生命地域学の課題研究などの取組はコンソーシアムと共同で行っており、交付金の事業も項目の中に含まれている。表現を修正する。</p>
万代委員	<p>県立高校の運営の中で、町の意向は高校の運営に反映されているのか。地域に密着した高校として、風通はどうなっているか。</p>
まちづくり 推進課	<p>町としての関わりとして、魅力化コーディネーターを配置しており、基本 2 名だが現在は 1 名である。地域おこし協力隊が 1 名とまちづくり推進課の職員がコーディネーターとして兼務する形としている。それ以外に、令和 4 年度から学校経営補佐官を町職員との兼務で 1 名配置している。毎週月曜日にミーティングを実施し、町の意見を踏まえて運営や取組みを行っている。</p>
万代委員	<p>町民の意見が授業等まで反映されていくと、他高校と差別化され魅力に繋がると考える。</p>
東委員	<p>人口が減少し、U/I ターン者の獲得が難しい中で、飯南高校の卒業生との繋がりを大切にすることや関係人口を増やす取組、高校が立地しているからこそできる取組が現状、情報発信のみとなっており、改善が必要である。</p> <p>全国的には中山間地域で生まれ育った人の約 7 割が地域を離れて、それぞれ事情があり帰ってこられない方もいる。そういう方とのつながりとして出身者会があるが、赤来広島会が近年解散されたこともある。</p> <p>今後高校を卒業して離れていく人たちや、出身者会に参加していたような上の世代とのつながりをどうしていくのか。</p>
まちづくり 推進課	<p>以前は活発に出身者会の会員が飯南町を訪れたり、こちらが出向いたりして交流していたが、高齢化等により組織が弱体化していることは認識している。近年、個人情報の取り扱いが厳しく、情報共有が難しい。</p>

	若い世代に対しては飯南高校の公式ラインを活用してつながりを創していく。出身者会は関係人口創出のための良い事例だと思うので、時代に沿った組織づくりや拡大できる仕組みを今後考える。
東委員	出身者会の方の子どもや孫世代と飯南町との関係がなくなってしまうことを危惧している。現在の出身者会の方が飯南町に帰ってくるのが一番良いが、町外に住んでいても、飯南町の米を買うなど、つながり方について、中山間地域研究センターも関わりながら考えていきたい。
石橋委員長	最初に加津山委員も言わされたが、地域差というものが問題ではなく、ソーシャルキャピタルの違いなど、違っていて当たり前。違っていることによって、取り組みのところで差が出てくるのは当たり前。課題は地域差ではなくその先のところにあると思うので、もう一步踏み込んで考えてもらえば、実際に具体的な施策に繋がっていくと思う。

・保健福祉課・福祉事務所【資料3-②】、飯南病院【資料3-③】

(事務局説明記録省略)

今岡委員	<p><b>施策71 新たな高齢者サービスの創出</b></p> <p>実施状況が事業凍結となっており、緊急通報電話事業の機能拡充を検討中と記載があるが、緊急通報電話事業の普及率はどのくらいか。</p>
保健福祉課 福祉事務所	70歳以上の単身高齢者世帯のみ等の利用条件があり、現在は120、130世帯で利用されている。ボタンを押すと警備会社に繋がり、電話がかかってきて、折り返しの電話が無ければ出動するシステムとなっている。
今岡委員	高齢者の具合が悪く、ボタンを押せない状況ではどのような対策をしているか。高齢者を対象としたデジタル活用は難しいと思うが今後どのような対応をしていくのか。
保健福祉課	<p>凍結の理由としては、当初はテレビ電話を利用しその場で医者との診療ができるなどを構想していたが、既存の設備で対応できるのではないかという考えになった。緊急電話装置は、固定で壁に設置していたものを移動式にすることや、毎日の健康状態を報告するボタンの設置が可能だとわかった。例えば、冷蔵庫を開閉した際、遠くに住んでいる家族に通知が入るシステム等、様々な見守り機能が活用されている。緊急通報電話のボタンを押すと登録先のメールに連絡することも可能だと聞いている。</p> <p>昨年検討していたインターネットを利用したものより、既存の緊急通報電話の機能拡張の方がより良い形になるとを考えている。今後、既存の緊急電話利用者に対して、民生委員を通じた普及を考えており、次回の民生委員協議会で依頼する。</p>
板垣委員	民生委員として福祉施設の第三者委員会に参加した際に担い手不足の話題をよく聞く。職員不足は何年も解消されない状況で、町だけの取組では難しい所もあるが、担い手不足への対策の見通しはあるか。

保健福祉課	各施設で特定雇用の外国人労働者を雇う現状にある。助成金制度について、介護の専門学校へ募集を出し、4月22日が締切だったが応募がなかった。卒業後は町内就職する条件付きであることがネックになっているとも聞くが、帰ってきてほしい思いがある。助成金などを活用し、担い手不足を解消していきたいと考えており、現在検討中である。
石橋委員長	<p>安否確認の問題は非常に難しく、デジタル技術の問題もあるが、最終的には地域の見守り等、アナログ部分との組み合わせになると思う。</p> <p>自治会長と地元で福祉会長もしているが、見守りが一番大事だと思いながら、一番負担が大きい部分でもあり、地域では緩やかな見守りにしようと話している。日にちを決めての見守りは長続きしないと思うので、ついでに少し見る程度がアナログ的な見守りだと思う。それにデジタルの技術が加われば、少しは良くなると思う。完璧はないので、またご検討いただきたい。</p>
加津山委員	全体的に、これまでの総括と今後の課題の項目について、総括しか記載されていないので課題も記載した方が良い。

・教育委員会【資料3-④】

(事務局説明記録省略)

芥川委員	<p>中学校統合はいつ頃の予定か。</p> <p>現在子どもが減る一方で、保護者はほとんど共働きのため、放課後の子どもの居場所として、公民館に低学年から中学年くらいの子どもが多く集まっており、手狭である。現状公民館や地域の方が見守っている状況だが、放課後の子どもの居場所についてどのように考えているか。</p>
教育委員会	<p>中学校の再編については、令和4年度と令和5年度で、教育環境基本方針について答申をいただいた状況である。令和6年度にて基本計画を策定予定である。答申として、小学校は残すべきという意見をいただいたが、校舎の老朽化の問題もあり、今後検討が必要。</p> <p>また、中学校統合にあたっては、答申のなかでは保小中高一貫教育を推進できる場所と記載され、飯南高校の近くに新設するか、既存の校舎を活用する場合は場所の選定など、費用やメリット、デメリット等踏まえながら令和6年度に検討し、基本計画を策定予定である。計画策定後、住民の方々の意見を調査する。</p> <p>基本計画完成後、実施計画を作成予定であり、基本計画に沿って、校歌や制服等、詳細な計画となる。明確な時期は決まっていない。</p> <p>子どもの居場所について、頓原地区では、頓原公民館で放課後子ども教室を実施しており、志々地区も同様に志々公民館のさつき会館で実施している。赤来地区は来島小学校の体育館付近で実施している。利用者が多く、賑わっている状況である。令和5年度に利用者アンケートを取ったところ、概ね現状の場所で良いという結果であった。もっと広く学校の体育館を利用した方が良いという意見の一方で、公民館など地域の方と触れ合える現在の場所が良いという意見もあった。現在は頓原地区と赤来地区で実施場所が異なるが、それぞれの特徴を活かし</p>

	ながら継続していきたい。
吾郷副委員長	頓原も志々も公民館で見てもらい、見守りが充実して安心できるという声があるので、どちらも一長一短あると思った。
石橋委員長	学校教育に関して、PTA の役割があまり出てこない。時節柄、PTA 不要論等あり、PTA の役割についてはどうなっているか。
教育委員会	PTA に関して、学校教育での役割はあまり議論されていないが、PTA に加入される保護者も地域の方であり、一緒に学校をつくっていく気持ちは変わっていないと思う。
板垣委員	都会に比べれば子どもを持つ世帯も減っており、頓原地区では教育講演会が実施されるなど、地域で子どもを育てるという意識が昔からあり、多くの方が参画していると感じる。しかし、学校の働き方改革により先生と保護者の温度差がある。保護者は学校に求めることが多く、保護者が意見を言わないと先生方は動こうとしないのでこの関係をどう取り持っていくかが課題だと考える。 保護者は仕事が忙しく、役に当たれば手伝うが、積極的に参加していくことが難しい状況だと思う。
大嶋委員	<b>施策 21 子育て世帯への経済支援</b> 奨学金について、高校生が卒業後町外に出て行ってしまう対策として、高校卒業後に飯南町へ帰ってくることを条件とした奨学金制度など設けられているか。また、飯南町で育てたい 7 つの資質・能力とは何か。
教育委員会	奨学金について、大学や専門学校の進学者への一般的な奨学金はあるが、大学卒業後、飯南町に住所を戻した場合に無償というような制度は現状ない。奨学金の中でも、医療関係で看護師資格を取って飯南町に帰ってきたら減免という形のものはある。そうしたものとの兼ね合いもあり、飯南町に帰ってきたら大学の費用は減免という形の制度も検討しているが、実現できていない。 7 つの能力について、主体性、課題発見力、計画力、想像力、巻き込む力、実行力、発信力と定めている。例えば課題発見力としては、保育所で色々なことに興味を持つことや、高校では、多様な人、物事に関心を持ち、様々な課題を発見する取組をしていくよう定め、取り組んでいる。
加津山委員	学校に行きにくい子どもや、発達障がいのある子どもたちは、基本施策の中ではどこに位置づけられるのか。
教育委員会	現在の計画では明確な位置づけはされていないが、飯南町内でも重要性が増していることであり、新しい計画を策定する際、新項目として設けることを考えているが、今後、担当課や策定委員と協議しながら明確にしていきたい。
林委員	隠岐の島の海士町の高校は島留学に取り組んでおり、留学生も多く卒業生が都会に戻ってからも関わり続ける仕組み作りが行われている。飯南町の小中高校について、他自治体の事例を視察し、取り入れていく方針はあるか。
教育委員会	高校について、まちづくり推進課の担当だが海士町と同様に、飯南高校の魅力化に取り組んでいる。

	学校の再編について、他市町の取組を今後視察し、良いところを取り入れたい。
林委員	視察の結果は今後、共有されるのか。
教育委員会	多くの課題について視察できれば良いが、実際は限られる。現在考えているのは、益田市で保育所、公民館、学校が同じエリアにある地域があり、そこに視察に行く予定である。

・総務課・頓原基幹支所【資料3-⑤】

(事務局説明記録省略)

東委員	<p>下赤名に住んでいた際、自治会長をしており、防災士の資格を飯南町の補助金で取得した。</p> <p>防災士の資格取得者で、防災士連絡会の仕組みが作られているが、資格取得後に知識やノウハウを地域にどう落としていくかが難しい。防災士の資格取得者が、地域で知識を活用し、活動の場を広げていくための立ち回りについてどう考えているか。</p> <p>防災は大切だということは理解しているが、具体的に何をしてよいのかを地域の方は理解できていない。避難経路や要支援者など、やらないといけないことが山積みであり、民生委員との連絡や、小さな拠点づくりとの連携など、防災は様々な組織や分野をつなぐきっかけになると思うが、他の課との連携の状況を教えて頂きたい。</p>
総務課	<p>防災士について、実態として防災士会を設立しているが、研修ができていない状況である。防災士は普段、地域の方への情報提供や、実際に災害が起こった場合には民生委員と連携し要支援避難者の誘導、避難所においてのストレスのない設備整備を中心として取り組んでもらいたいと考えている。</p> <p>また、県により防災士のリーダー研修などが開催されており、防災士の方には案内をしている。</p> <p>具体的には、要支援者の避難名簿を保健福祉課と防災士、防災危機管理室で共有しており、そういったところから取り組んでいきたい。</p>
林委員	<p><b>施策10 行政サービスの高度化・利便性向上</b></p> <p>実施状況について、R5年度着手予定と記載されているが間違いではないか。</p> <p>今年度の議会のペーパーレス化と記載されているが他に想定している行政サービスはあるか。</p> <p><b>施策83 情報通信網の整備・維持・活用</b></p> <p>超高速化と記載されているが、どのくらい高速なのか教えて頂きたい。</p> <p>活用方法を検討していくと記載されているが現時点での活用方法の案があれば教えて頂きたい。</p>

	<p><b>施策 85 地籍調査の促進</b></p> <p>新たなサービス提供と記載があるが、現時点でのどのようなことを予定しているか。また、航空写真データが10年以上経過していると記載されているが、古いデータのままサービスを提供する予定なのか、今年度更新するのか。費用なども教えて頂きたい。</p>
総務課	<p>実施状況について、表現を修正する。R5年度から実施していた取組であり、今後引き続き進めていく。</p> <p>ペーパーレス以外の改善案について、現在全国共通のシステムを使用して進めているが、すべてを電子化するには、多くの費用が必要になるため、できるところから順に取り組んでいく。来年度以降は、状況を見ながら優先順位を検討し進めていく。</p> <p>超高速という表現について、光ケーブルの敷設とFTTHの事業が完了し、光回線が使用できるという意味で表現した。例えば動画が止まる等の不具合が光ケーブル敷設により解消されたため、今後は、様々な分野で光ケーブルを活用していきたいと考えている。</p> <p>地籍調査について、現時点での新たなサービスを提供する想定はできていない。</p> <p>航空写真の更新について、今後どのようなサービスを提供するかによって、必要となるデータは違ってくるので、他自治体の事例も踏まえて検討し、更新する。</p>
林委員	<p>ガバメントクラウド移行で手一杯だということは理解している。移行が終了次第、サービスの計画を立てると思うが、現状で住民にとってより良いサービスがあれば教えてほしい。近年サービスの移り変わりが速いため、早い段階で他自治体の事例を参考にして、計画に組み込んでいく必要がある。</p> <p>GISの話に関しても同様だが、目標に対して取組内容の想定が無いと、達成できたかどうかの評価の判断が難しいと思う。来年度実行しようと思ったら今年度予算取らないといけないので、今の時点で想定されていないと、目標をどう達成されるか気になった。</p> <p>県で情報システムを担当しており、良いシステムがあれば、連携してできたら良いと思っている。</p>
総務課	<p>現在、国からは電子化を進めることを要望されており、ついていくのに精一杯の状況である。さらに、導入経費は国から補助されるがランニングコストは補助されない。運営費用や経費を自治体で負担すると財政的に厳しく、担当課としても困っている。県と連携して国に補助を要望していく必要がある。</p>
板垣委員	<p><b>施策 15 地区担当職員制の強化</b></p> <p>地区担当制が導入された当初は、広報などに地区ごとに配置された職員が紹介されており、各職員の居住地域に担当として振り分けられていたと記憶している。私の集落でも集落内に居住する担当者によりスムーズに問題が解決されたが、そういう職員がいない地区では町外在住の職員が担当となり、うまく連携が取れることもあった。</p>

	地元の職員であれば話しやすく、有機的に機能するしくみだと思うが、一方で職員の能力や立場に左右される仕組みであったとも受け止められる。システムをこれから強化すると記載があるが、このシステムによる具体的な効果や期待されていることをお聞かせいただきたい。
総務課	<p>地区担当制について、地区担当制は担当者が地区のすべてを請け負うもではなく、地区の要請に応じて支援をするのが本来の姿だと認識しており、その点がうまく伝わっていなかったところがある。地区担当制については、毎年4月の自治区長会で説明している。地区出身の職員数により、必ず出身担当の地区になるとは限らない。その中で、地区担当制にて期待する効果は、施策14と同じ括りの職員の資質向上を一番の目的としている。地区からの要望や質問として、担当分野以外のことへの対応も求められる。今後も職員の資質の向上を目標に地区担当制を継続していきたい。</p> <p>あくまでも地区の運営はその地区の住民で行うのが本来の姿であり、それを職員が裏からサポートし、困った時に気軽に相談できる体制がこの制度の本来の姿だと考えている。そういう点が十分説明できていなかったと感じている。今後機会があれば伝えたい。</p>
林委員	飯南町では、他自治体への視察はどのくらいの頻度で実施しているか。デジタル活用に限らず農業、産業など様々な分野で他自治体の良い事例があり、次期計画の施策にも、良い事例を積極的に取り入れて検討できると良い。島根県内でデジタル活用に関して、益田市は北海道北見市の窓口を視察する等頻繁に取り組まれているが、飯南町ではどのくらい視察をされているか。また今後、計画はあるか。
総務課	<p>全体的な視察の頻度に関するデータは現状無い。各課で新しい事業を始める際には他自治体を参考にする。今年度、病児保育施設の建設に取り組むため、県内の近隣市町には視察に行くが、全国的に先進的な取組みをしている自治体の視察は、当初の予算で旅費等も組んでおらずできていない。コロナが5類に移行し緩和されてきたが、移行以前は視察をほとんど実施していない。最近定住相談で東京や大阪まで行くようになったが、昨年の遠方への視察数は少ないとと思う。今後、取組を進めるにあたって、飯南町に合った事例を探していくために、全国の事例を参考にすることは重要だと思うので、各課で情報を共有し検討していく。</p> <p>様々な情報誌も参考にしながら、特に電子化の取組については、全国で多くの先進地域があるので、担当者とも協議しながら進めていく。</p>
石橋委員長	色々と出た意見を取捨選択し、具体的な施策の組み立ての参考にしていただきたい。板垣委員が言わされた地区担当職員制について、会長をしており、毎年名簿もらって自治会に配るが、ほとんど活用していないのが現状であり、どう相談に乗ってもらうか等、あり方を考え直す必要がある。

#### ・住民課【資料3-⑥】

(事務局説明記録省略)

林委員	<b>施策 80</b> 公共交通の充実
	自動運転について、導入の費用や、実際運行してどのくらいの収入があり事業として定義できているか、自動運転の効果や、赤字の場合は継続に意味があるのか教えて頂きたい。住民アンケートにて、年を取って車を運転できなくなった時の交通の要望について書いたが、自動運転が全てではなく、高齢者や運転できない方に他のニーズがあれば反映したほうが良い。もし住民のニーズが異なるのであれば、意見の吸い上げや今後の目標、計画への反映について、教えていただきたい。
住民課	自動運転の経費について、具体的な数字は把握していないが、大幅な赤字となっている。実際の利用人数は、令和 3 年度 10 月に運行開始し、令和 3 年度実績が 412 名、令和 4 年度は 467 名、令和 5 年度は 260 名であった。運行開始当初は町中での利用の他、車両が珍しいため、道の駅への訪問者が観光的な要素で利用されるケースがあった。令和 4 年度の冬季は運休していたため一概には比較できないが、令和 5 年度は大幅に減少している。利用可能エリアが限られているため地域公共交通としての機能が十分に果たされていない。路線バスとデマンドバスの主な利用者に対して、今年度ニーズ調査をする予定である。それをもとに、既存の第 2 次地域公共交通計画を来年度にかけて見直し、精査していく予定である。路線バスやデマンドバスの利用者からは、家の近くを通ってほしいという要望を頂いている。すべての要望に対応することは難しいが、要望として把握し、今後対応していきたいと考えている。
吾郷 副委員長	<b>施策 23</b> 縁結び支援
	重要業績評価指標 (KPI) 一覧【資料 1】に婚活イベントの参加者数の令和 5 年度の実績は 34 人で目標人数は 80 人と記載されているが、実際に今まで何組が成立したのか。 新規登録者の確保が課題と記載されているが、現在の登録者人数と今後どのような方針で婚活を進めていくのか教えて頂きたい。
住民課	婚活イベント等に関して、具体的な数値は把握していない。また改めて報告する。 婚活イベントについて、新型コロナウイルス感染症の影響があり、イベント自体の計画が馴染まなかったところがある。昨年 5 類に移行されたので、今年度は婚活関係の業者と協力し、イベントの開催を予定している。 イベントによる成婚数については、数値が増加することが望ましいが、結婚は当事者同士の関係性が最終的に重要となる。現在、住民課こども未来推進室に相談員という形で一人配置し、こまめに連絡を取り対応しているが、個人の問題ということもあり、苦慮しているのが現状である。 成婚が子どもの出生数に直接影響してくるとは言えないが、一つの流れとして重要な施策だと思うので、コロナで規模が落ち込んだ部分に関してもてこ入れをして、今後検討していきたい。

吾郷 副委員長	<b>施策 22 保育環境の充実 No.36</b> 乳児・病児保育の導入について、働く親にとってわずかなことで呼び出されるのは働きにくいと感じられる。子ども目線で考えると、病気の際は親に見てもりたいという思いがあり、親の便利だけではないことが伝わりやすいよう、記載の仕方や文言を次の政策に反映して頂きたい。
住民課	親として、病気の子どもを家で看病してあげたいという思いもある。自分の子どもの状況については親御さんがよくご存じなので、そのような思いも踏まえて記載方法を検討したい。また、施設の運用に関しては、最後のセーフティーネット的な形と考えており、利用料金なども含めて施設のあり方を検討していく。
板垣委員	今後、高齢化により免許を返納されてくる方が増加し、高齢化が進んで交通過疎が問題となっていることを実感している。その課題に対して懸命に対応する姿勢は理解しているが、委託業者の提案に柔軟性を感じられない。例えば、ダイヤ改正について、雲南市は毎年度時刻表が住民のニーズに沿って改正されているが、飯南町ではされていない。路線バスやデマンドバスの時間の重複や、通院の行き帰りにダイヤが合わず、困っている住民もいる一方で、ダイヤの見直しは難しいと聞く。多額の委託料を払っておられると思うが、委託業者の関係性や柔軟性の見直しはどうなっているのか。
住民課	ダイヤ改正について、(株)バイタルリードへの委託が多いが、限定で委託している状況ではない。利用者の目線が大切だということは重々承知しており、地域公共交通会議での意見収集や今年度予定しているニーズ調査にて意見収集を考えている。飯南町のバスの運行については通院や高校生の通学などがポイントとして挙げられる。町外へ出かける方はバスの乗り継ぎの関係もあるので、すべての方が満足できるダイヤ改正は難しいが、柔軟な対応という部分に関しては、今後念頭に置きながら計画を進めていきたい。
石橋会長	<b>施策 100 新エネルギーの活用促進</b> 森林資源の活用や太陽光・水力発電など新エネルギーについて、ソーラーパネルや水路を利用した事業だと思うが、これらの事業を大規模に実施すると弊害がある。身近に太陽光発電基地が2か所あり、新聞の特集記事でも他地域の状況を取り上げられていたが、雨のたびに泥水が流れ、水路が塞がれ、ため池も埋まってしまう。すぐに対応できれば良いのだが、事業主と管理会社が違い、さらに地権者も違うため、たらい回しにされ対応してもらえない。相談窓口があれば良いと思い、県民センターに問い合わせたが、施設を建設する際には相談窓口があるが建設後の相談窓口はないといわれた。 新エネルギーの施策はとても重要だと思うが、適切な対応をしてもらわないと地域にとって不利益な施設となってしまう。今後は、相談窓口などを設けてもらうなど、問題解決のため検討して頂きたい。
住民課	新エネルギーについて、住民課で記載しているものは家庭用のソーラーパネルや薪ストーブ、木質バイオマスボイラーなどの整備の補助金について記載してお

り、小規模なものである。過去に産業振興課に在籍しており、状況は把握していた。今の施設等の建設後の対応については、新エネルギーに限らない話であり、他にも困る案件があった時の相談先について、住民相談があるが、役場内部でも、迷うところがあるため、その部分に関しては、担当課に関係あるかどうかではなく、真摯に取り組めるような体制が基本であり、役場全体の問題だと受け止め、今後検討していく。

#### ・産業振興課【資料3-⑦】

(事務局説明記録省略)

勝部委員	<p><b>施策42</b> ブランド化の推進</p> <p>新商品の「くろもじ くゆりのもり」について、箱入りの価格は税込み4,950円で、出雲大社の神門通りのビームスにて販売されているが、価格帯は適正で今後も継続して新商品の開発をしていくのか、現状の手ごたえはいかがかお聞きしたい。</p> <p><b>施策46</b> 農林業従事者の育成・確保</p> <p>農業担い手支援センターを中心に、島根県立農林大学校など各関係機関と連携して農業指導を行われているとのこと。農林大学校へは町外や県外から農業を学びに来ると思われるが、飯南町へ定住したいと思うような連携も含めた指導という認識か。飯南町で就農し、定住、結婚されることが循環すると望ましいまちづくりになっていくと思う。そうした対策が実際実現しているかもお聞きしたい。</p> <p><b>施策53</b> 情報発信の機能の強化</p> <p>観光ホームページ閲覧数について、インバウンドに対応し多言語したことにより閲覧数が増えたのだと考えられるが、他の要因があるのかどうかが今後の取組やSNS活用にもつながると思うので、情報としてあればお聞きしたい。</p>
産業振興課	<p>新商品「くろもじ くゆりのもり」の価格について、「くろもじ くゆり」を15本入り税込990円で販売している。購入された方からより多く入っているものがほしいと要望頂き、100本入りの「くゆりのもり」を作った。箱入りで、くろもじの木に金具を入れて作ったお香立てや、くろもじの葉や裁断する際のおがくずを入れている。5,000円は感覚として、少し高い気がするが、需要はあり、この価格で進めている。くろもじはいい香りがするため、昔は高級な和菓子の爪楊枝としての利用がほとんどだったが、木自体もそれほど大きくなく、飯南町にも多くくろもじが生えており、何かに使えないか検討している。町内にも置いてあるが、売れやすいのは神門通りのビームスや出雲空港でも販売しており、町外の方向けに評判が良いと考える。養命酒にも飯南町産のクロモジが使用されており、香りが良いので、今後いろいろな使い方があると考える。観光協会に委託し</p>

	<p>て製作しているが、観光協会とも共にアイデアを出し合い、違う商品の展開を考えている。</p> <p>観光ホームページ閲覧数について、なぜ増えたのか詳細は分からないが、出雲大社の影響が大きいと考えている。明日、台湾からの観光客がしめ縄創作館に訪れ、その後、出雲大社を観光する予定である。インバウンドの方が飯南町で一日過ごすのは難しい状況であり、通過型だが、出雲大社とセットでの観光が観光ホームページの閲覧数増加の要因の一つではあると思う。年々閲覧者数が増えており、より魅力的なページを作り、さらに増やしていきたい。</p> <p>担い手支援センターと農業従事者の支援対策について、新規就農者の実習は新規就農者を卒業した先輩のところで春から秋にかけて実施している。座学は大田の農林大学校に通い実施している状況で、座学と実習を組み合わせた形で実施しているので、継続していく。</p>
勝部委員	<p>ブランド化の推進について、リピーターがあるとのことだが、観光客をターゲットにしている一方で、リピーターは身近な人だと思う。観光客に対しては価格帯が高いので、990円と5,000円の中間があっても良いと思う。線香が割れないように本数やパッケージを企画されていると思うが、リピーターであれば、外装よりも、他の形で本数が多いものがあると良いのではないか。</p>
産業振興課	<p>現在、飯南町のオンラインショップにて販売をしており、その利用者からの要望もあったと聞いている。リピーターとしては、人工的な香りではなく自然の香りのため、ヨガなど美容関係の施設でもよく使用されており、そういった方はパッケージより本数を求められると思う。</p> <p>パッケージについても、デザイナーと話をして、こだわりを持って作っている。令和5年度に始まったばかりであり、先ほどの意見も踏まえて今後進めていく。</p>
万代委員	<p><b>施策56 自然体験の場・ガイド育成</b></p> <p>サイクリングロードの整備について、ヒルクライムやロングライド、クライムライドが実施されている。大会に参加したことはないが、飯南町周辺を走ったことがあり、感覚ではサイクリングロードの整備に関しては島根県内で一番の素材になれると思う。マウンテンバイクのコースづくりについて、具体的なコースは決まっているのか。琴引スキー場の夏活用について何か検討しているのか。</p>
産業振興課	<p>マウンテンバイクのコースについては、具体的に決まっていない。自転車での町おこしをしており、ロードバイク以外にも自然豊かな場所なので琴引ビレッジの夏利用等もできたらと思うが、具体的にできていない。過去に、勝手に保安林内を走行し、地元から注意された事例があるが、それは手続きの問題であり、資源としては多くあるので、活かせるよう今後検討していく。</p>
万代委員	<p>地元の方との関係性は非常に重要で、歓迎されるような形でないところは難しいと思う。最近列車を撮影する人のマナーが問題になっているが、そういうマナーはどこでも同じで、住んでいる人が優先という考えは当たり前だと思う。例えば、ふるさと納税の返礼品を自転車用品にし、寄付額をコース作りや歩道整備の費用に充てるなど、全員で自転車のまちをつくろうという流れが関係人口の拡大</p>

	に繋がるのではないか。この分野については聖地や県一番を目指す等、益田市も同様のことを謳っているが、そのくらい強気で取組んでほしい。
林委員	飯南町総合振興計画・総合戦略の目標指標（KPI）一覧【資料1】p.2 の指標で、エコロジー米栽培面積の今年度の目標は 320ha で現状は 158ha であり、目標に対して差がある。森林セラピーの利用者は目標の 3,000 人に対して現状は 508 人であり、コロナの影響で観光客数が減少した中で仕方ないとは思うが、目標達成に近づけるにあたって今後の対策を教えて頂きたい。
産業振興課	エコロジー米について、みどり認定の制度が変更され、これまで島根県、全国的にエコロジー米を作る制度があったが、制度の変更により更新が必要となり、更新できていない方がいたため面積が減少した。今年度からみどり認定が始まるので、目標を達成するため、施策を打っていく。 森林セラピーについて、コロナ禍以前はインバウンドなどの影響により大幅に上昇していたが、コロナ禍を経て、今回新たな目標設定は、現在の状況を踏まえて検討する必要がある。
林委員	3,000 人を見直すのか、3,000 人を据え置きにするのであれば、508 人から 3,000 人に増やすための取組方針はあるか。
産業振興課	「森のホテルもりのす」を民間に譲渡し、今後は民間の活力を最大限に活かして来訪者を増やしていく。キャンプ利用だけでなく、セラピーも切り離さず進めていきたい。コロナ禍以前は約 1,200 人程度だが、5 類に移行されたので多くの方に利用してほしい思いを込めて数値を設定した。 外国人入込客数について、0 人という数値は各施設からの報告を足したものだが、観光施設でも宿泊ではないと外国人かどうかの判断が難しく、実際は 0 ではない年もあると思う。今後はそのようなところも精査しながら進めていく。また台湾からの観光客が来ることもあり、インバウンドをさらに開拓していくと思っている。
林委員	みどり認定が変更され、認定を更新すれば目標を達成できるということか。
産業振興課	現在、達成できるように取組みを進めている。今年度はみどり認定を受ける方に補助金を出し、認定を促進していく取組を進めている。

・建設課 【資料 3-⑧】

(事務局説明記録省略)

板垣委員	施策 75 住環境の整備  単身高齢者が増加し、自宅で過ごすことが難しいため団地へ入居されることも想定され、古城団地もバリアフリーに改修されているが、全体として、今後階段が登れない方への対策など、大規模な改修などを見越した施策は考えているか。
建設課	現在の課題としては、高齢者の問題や、待機者状況をみて世帯用の施設が少ないことや、特別公共賃貸住宅が足りないなど多くの課題があり、その中にも、昭

	和に建てられた急な階段がある住宅もあり、その改修が課題となっている。古城団地についても、数年前から計画に基づいて改修しており、計画的に進めていきたい。
板垣委員	エレベーターをつけるような改修は多額の費用が必要となると思うが。
建設課	細かい話だと、ウォシュレット付きのトイレ設置など、過度な設備にならない程度の改修をしていきたいと考えている。
加津山委員	<p><b>施策 84 上下水道の整備</b></p> <p>多くの自治体で、人口減少に伴う上水道や下水道の料金改定など、利用率の減少の中で採算を取るために審議会をされ、値上げされている記事をよく見かける。飯南町も将来、老朽化している部分の修繕など投資されると思うが、利用料金の見直しの計画はあるか。</p>
建設課	そのような記事があることは承知しており、課内でも話題に上がる。現在の段階で、水道料金の値上げの計画はないが、今後見直しが必要となってくる。
石橋会長	住宅の問題は都会でも課題となっており、今後はある程度高齢化に対応した住宅の在り方が求められてくる。そこは先取りしてでも対応していく必要がある。単身高齢者で自宅にいるのが不安になり、そういう住宅を求める方も今後増える可能性があり、検討して頂きたい。
建設課	当初は複数人で住んでおり、子どもが出ていき最終的に一人になる世帯もあり、世帯用の住宅に高齢者1人という住宅もある。一方で世帯用住宅を求めて空きが無くて入れないケースもあるので、世帯用に一人で住む方は単身用住宅への移動を推奨するなど、様々なことに対応していく。

### 3. 閉会

事務局	<p>本日いただいた意見については、事務局で取りまとめを行い、委員長や副委員長に確認後に、町長に報告する。次回会議の日程については、資料と付属して日程調整表を送っているので、記入し提出いただきたい。</p> <p>本日の会議で追加の意見等があれば、メールや Fax にて頂きたい。報告書に反映させていただく。</p>
石橋委員長	現計画の評価という形で意見を出してもらい、新しく作る計画に向けての意見も多くあったと思う。良い計画にするため、現行計画の問題点や評価をしていくことが大事だと思い、今後、具体的な施策を担当課で組み立てる段階の役に立ていただければと思う。

- 以 上 -